

意見募集（パブリックコメント）結果【子ども・若者からの意見】

整理番号	提出されたご意見		ご意見に対する市の考え方
子どもからの意見（8-1～9-7）			
8-1	意見	ロング昼休みを中止じゃなくて延期にしてほしいです	インフルエンザなどが流行った時や、その季節によって、学校ごとに行事を延期したり、中止したりすることがあります。児童生徒の安全を一番に考えて、できるだけロング昼休みの時間をとれるように、学校に意見を伝えます。
	理由	インフルエンザが流行った時にロング昼休みが中止になってしまったので、中止じゃなくて延期にほしいです	
9-1	意見	学童でも、あびっこでもない放課後に行ける勉強できる場所、遊べる場所があるとよいです。	宿題や勉強ができる場所として、学習支援教室などがあります。 図書館では、読書をしたり、調べ学習をしたりすることもできます。また、近隣センターのフリースペースやけやきプラザ11階のうなぎちさん家では、静かに勉強や読書をするほか、友達とおしゃべりすることもできます。 水の館には、手賀沼について学習できるコーナーや展望室があるので、ぜひ遊びに来てください。 場所や開いている時間などは、市のホームページで確認できます。
	理由	一人で留守番するのがいやな時に自由に行けるところがあるとありがたいです。	
9-2	意見	手賀沼をもっと活用した遊び場が出来たらうれしいです。我孫子と柏をつなぐジップラインとか、手賀沼で遊べるものがあります。	ジップラインなどの遊具を手賀沼に設置することは難しいですが、我孫子市には手賀沼親水広場や手賀沼公園など、水辺で楽しめる施設があります。特に、親水広場には、水遊びができるじゃぶじゃぶ池や手賀沼が見える広い芝生広場があります。水の館の中にはプラネタリウムやレストランもありますので、ぜひ遊びに来てください。 また、手賀沼の近くではいろいろなイベントが開催されています。イベントについても、みなさんにわかりやすくお知らせできるよう工夫していきます。
	理由	我孫子にもっとたくさんの人が遊びに来てくれるかもしれないです	
9-3	意見	市民プールが出来たらうれしい。	市民プールを作るには、プールを作る大きな場所が必要ですが、我孫子市内にはすぐに作れる場所がありません。また、以前は、小学校のプールを夏休みに開けていましたが、安全面や熱中症への対策が十分にできないため、現在は、市内の室内プールを夏休みに無料で使用できるようにしています。 取手市にあるグリーンスポーツセンターには、夏休みに利用できる外プールがあり、取手市民と同じ料金で利用できるの、こちらのプールをぜひご利用ください。
	理由	外のプールで泳ぎたいです。	

9-4	意見	小学校の部活の種類を増やして欲しいです。	部活動の種類を増やすことは難しいですが、具体的にやりたい活動がある場合は、学校の先生に相談してみてください。地域クラブなどはあるのか、どうすれば活動できるのかなど、一緒に考えてくれます。
	理由	興味のあるものがないです。	
9-5	意見	小児科を増やして欲しいです。	現在全国で小児科の医師が不足しています。我孫子市内の小児科は混んでいるので、近くの市の小児科に行って診察を受ける人もいます。 そのため、令和6年度から「我孫子市小児科診療所開業促進補助金」という支援制度を始めました。この制度は千葉県で初めての取組で、我孫子市の西側に小児科の診療所を新しく作る人や、すでにある診療所に小児科を追加する人に、お金を支援する制度です。この仕組みによって、小児科の診療所が増えることを目指しています。
	理由	どこも混んでいます。たくさん待たされたり、予約が必要みたいで、大変です。	
9-6	意見	ランドセルをやめたいです。	ランドセルは、体への負担を軽くしたり、丈夫で安全な作りになっていたり、たくさん良いことがあるので、学校ではランドセルをすすめています。 体に合わないなどの事情がある場合は、学校に相談してみてください。
	理由	重いし、あまり入らないです。とても高かったみたいです。好きなリュックだと安いし、個性もあって楽しいと思います。	
9-7	意見	大谷選手の贈ってくれたグローブで遊びたいです。	学校の先生に保管している場所や使い方を聞いてみてください。ルールを守って、楽しく遊んでください。
	理由	いま、どこにあるのかわかりません。	

若者からの意見 (10-1)

10-1	意見	若者の居場所支援を行っていくべきだと思う。	社会参加は、人とのつながりを築き、協力し合うことで、自己肯定感を高め、自己成長を促します。地域活動やボランティアは、自分が関心のある分野や自分にできることから、だれでも始められる身近な活動です。 「あびこ市民活動ステーション」と「ボランティア市民活動相談窓口で・と・り・あ」は、市民活動を行っている方やこれから始めようとしている方をサポートする施設です。 また、「地域に居場所を持ちたい」「地域の活動に参加してみたい」「ボランティアを経験してみたい」という方には、市民活動団体を紹介したり、イベントや講座の案内をしたり、地域で何かをしてみたいと思ったときに、相談できる場所・情報を集められる場所でもあります。 若者の居場所については、国が策定した「こどもの居場所づくりに関する指針」に基づき、調査と検討を進めていきます。 いただいたご意見を踏まえ、第4章 3-4 子どもの居場所と体験活動の充実について、別紙3のとおり修正しました。
	理由	現在の行政が行っている若者支援の多くは、就労支援が中心になっていることが多いため、(例: サポステなど)引きこもりや「社会のルールから外れてしまった」と感じた若者にとって、社会復帰したいと思っていても、いきなり就労だとハードルが高すぎるのではないかと感じている。まず必要なのは、「自己肯定感を上げる」「孤立させない」ための安心できる居場所だと思う。 その中で、自分の好きなことを話したり、それを誰かと共感したりすることで、心の健康状態が安定したり向上心が生まれるようになると思う。 それに、利用者同士が刺激し合うことで、「あの人ができるなら、自分にもできるかも」といった場の力が、社会参加への第一歩になるのでは？ 「働くこと」をゴールにするのではなく、「自分の生き方や価値観を見つけること」や、「誰かの役に立つ経験をする」ことも支援の中で大事にされるべきだと考えている。すぐに「働きたい！」と思う若者にはしっかりとした就労支援を提供する。一方で、まだ働くことを望んでいない若者には、ボランティアや地域活動など、社会参加につながる選択肢を用意するといったことが求められていると思った。 支援の1つの入り口として、「自己肯定感を上げて自信をつけられる環境」があってもいいのではないかと感じている。	